

常任委員会だより 臨時号

令和元年7月24日
港区立麻布小学校 PTA

『常任委員会』は、安達会長、黒田校長、宮島副校長、本部役員、学年部・広報部・校外指導部の各部長・副部長、各学年の学年部員で構成されており、PTA 主催行事や活動、学校関係の懸案などについて報告・連絡・協議等をおこなっています。

常任委員の活動を「常任委員会だより」で麻布小 PTA 会員の皆様にお知らせいたします。

臨時常任委員会 令和元年7月17日（水）10：00～ 麻布小2階会議室

1. 安達会長より

お忙しい中、秋祭りに向けた臨時常任委員会にお越しいただきありがとうございます。

7月4日（木）に白金の丘学園ホールで行われた特別支援教育講演会に参加してきました。特別支援学級を担当している先生が主に参加される会ですが、一般の保護者にも公開されていて、私が興味を持った理由は二つあります。一つは私自身、学校が苦手で学校に属している感覚があまりなく、小学校6年生で児童会長をやった時は大きなストレスを感じ、息子が小学校に入学して初めて学校の価値がわかるようになったからです。もう一つの理由が、ある保護者の方からお子さんがなかなか学校に溶け込めないとご相談をいただき、どうしたらよいかと考える中で、東京大学の先端科学技術研究センターの人間支援工学分野教授の中邑龍賢さんという方が、学校に適應できない子を集めて「異才発掘プロジェクト」をされていると知って興味をもち、その方の講演だったので行って参りました。

中邑先生のお話だと、今の社会は過度の規格化・効率化が行われて使いにくいものが排除され、そこには人間も含まれていて、学校に属することが難しい子が出てきます。そういう子たちに行き先を提供するため、特別支援として中邑先生が考えていることの一つに、電卓やワープロ、パソコンなどの道具を使わない「裸の学力」を重視する教育が行われている中で、道具を使うことで普通の子と同じくらいの学力が得られるようになる子は道具を使って入試を受けられるようにする、という活動があります。先生の所に来ている子供たちは時間がたっぷりあるので、例えばある子はトリュフに興味がありトリュフのことは何でも知っていて、友達にその話をしても受け入れてもらえないが、世界には同じようなことに興味をもつ人が必ずいるから安心して、今こだけを見るのではなく広い世界を見ていきなさい、とおっしゃっているのです。自分が興味を持つことや、先生が与える難題をやり遂げることで、自分ができることがあった、認めてもらったという安心感から、普通の学校にも行ってみようかなという次のステップに進むきっかけになるとお話しされていました。

2年前のプレジデントの記事に「小中学校の友人なんてクソみたいなもの」というセンセーショナルなタイトルの記事があり、一時期話題になりました。大人になってから小中学校の友達と会うことは1年に1度あるかないかではないでしょうか。今友達関係に悩み、困っていたり、自分には価値がないと思っても、大人になればもっといろいろな人間関係ができてくるし、属する所がないと感じているお子さんでも、今は様々な受け口もあるので安心して大人になってほしいというメッセージを伝えたいと思い、お話しさせていただきました。

2. 宮島副校長より

校長は3年生と東京タワー見学のため、本日は欠席させていただきます。

夏休みにはぜひ「コツコツドカン」をしてほしいと思います。「コツコツ」とは、長期の夏休みだからこそ自分でコツコツ積み上げていくことを続けてほしい、「ドカン」とは、夏休みしか体験できないような大きなことにドカンとチャレンジしてほしいということです。私の担任時代はいつもその二つを伝えていました。コツコツやることの大切さ、普段できないような旅行やボランティア等チャレンジの体験をぜひしてほしいと思います。やったままにするのではなく、きちんと振り返りをして自分がやったことを客観的に価値付けることで心に残るいい夏休みになり、2学期に向けて頑張ろうという気持ちになるのではないかと思います。

学校は一つの正解を求めることにチャレンジしがちですが、今求められているのはオープンエンドという、正解がない問題を自分で考え答えを見つける力を育てることです。未来の担い手、地域の担い手として、その資質を育てていくことも学校教育に迫られている課題です。力強くたくましく自分の未来を切り開く、友達がいない状況であっても将来的に自分はこうなろうと未来を描いていけるよう

な、そういう子供を育てる学校でありたいと思って取り組んでいます。

3. 小P連・地区委員会報告

■ 小P連報告

- ・港区は小学生が増えていて5年後には校舎や教室が足りなくなることが明らかなため、PTAは教育委員会や区に校舎を増やすリクエストをする必要があります。その5年、10年後にはまた減少するかもしれないが一時的な増加かもしれませんが、子供たちの学習環境を整えるために話し合っていく予定です。

■ 地区委員会報告

- ・7月6日(土)に六本木中学校の校庭で「みんなで花火」が行われました。500~700人が参加し、校長先生も来てくださいました。花火は当初手持ち系と吹上系としていましたが人数が多く危険が伴うため、途中から手持ちに限定しました。怪我やクレームの報告もなく、今年の経験を生かし来年につなげられればと思います。
- ・8月10日(土)から12日(月)に行われる「みなとキャンプ」に、六本木地区からは69名の申し込みがありました。

4. 秋祭りについて

秋祭りの内容に関しては、お子さんにはお伝えにならないようお願いいたします。

・ 概要

9月のある日、児童に「学校の大切な何かを盗みに来る。覚悟しておくように。怪盗マジヤミ」という予告状が届きます。秋祭りの当日に予告のあった盗難が行われるので、子供たちは縦割り班を基本にしたグループ単位でミッションをクリアし、謎解きをします。構図としては「怪盗マジヤミ(宮島副校長先生)対名探偵ダーロック(黒田校長先生)」で、名探偵ダーロックの謎解きを子供たちに手伝ってもらいます。

・ 目的

楽しむ・考える・協力する

・ メリット

- ① PTAの物的準備が少なくなる
- ② 子供の流れを把握できるため混乱が軽減
- ③ 先生方の準備等の負担の軽減
- ④ 現PTA役員・部員だけでまかなうことができ、ボランティア招集の必要がない
- ⑤ 縦割り班をベースにするため、子供たちが学年を超えて協力できる
- ⑥ 学校、PTA、地域について理解を深められる

・ 具体的な流れ

16ある縦割り班を二つに分け32グループ作ります。それぞれを大人が引率し、4、5箇所用意されたチェックポイントを回ってミッションをクリアすると、1枚の紙がもらえます。ゴール地点に大きなパネルがあり、そこに紙を当てはめていくと謎解きのヒント、もしくは答えが映し出されるという仕組みです。PTA役員・部員の皆さんにお手伝いいただきたいのは、各グループの引率と各チェックポイントの係です。引率者はチェックポイントの係から与えられたクイズやミッションを子供たちに読み上げたり、クリアを確認したりする役をさせていただきます。ミッションの内容は検討段階ですが、縦割り班ですので、1年生も参加できて6年生も楽しみ、協力してできる内容にしたいと思います。

5. ラジオ体操について

7月23日(火)から27日(土)まで行われます。お父様方にもたくさんご参加いただければと思います。体操のお姉さんの原川愛さんが今年もいらしてくださいます。

6. 自然体験について

1回目の告知をお手紙にて配布しました。9月の初めに副会長数名で施設を下見し、メールマガジ

ンで施設の紹介等のご案内を配信します。その後に正式な募集を行う予定です。

7. 各部報告

校外指導部

- ・ 防犯パトロール（前期）について
7月6日（土）の土曜登校時に見守り活動を行いました。
- ・ 港区こども110番について
先月行われた港区説明会での学区内協力者リストを元に、部員が各地域を手分けして協力店などを訪問し、継続確認やステッカー配布を行っています。

8. その他（安達会長より）

- ・ ミマモルメのサービスに66名の申し込みをいただきました。学童に通っている児童の分も合わせると100名近くとなり、学校の3分の1以上の児童が利用しています。
- ・ 読み聞かせボランティアの活動が始まり、広報部に取材していただきました。

次回の常任委員会は、9月7日（土）10：00～ 2階会議室で行います。

常任委員会は、PTA 会員はどなたでも参加できます。ご興味のある方は、覗いてみてください。

麻布小学校 PTA 本部へのご意見、ご質問はこちらまで
azabuhonbu2019@gmail.com